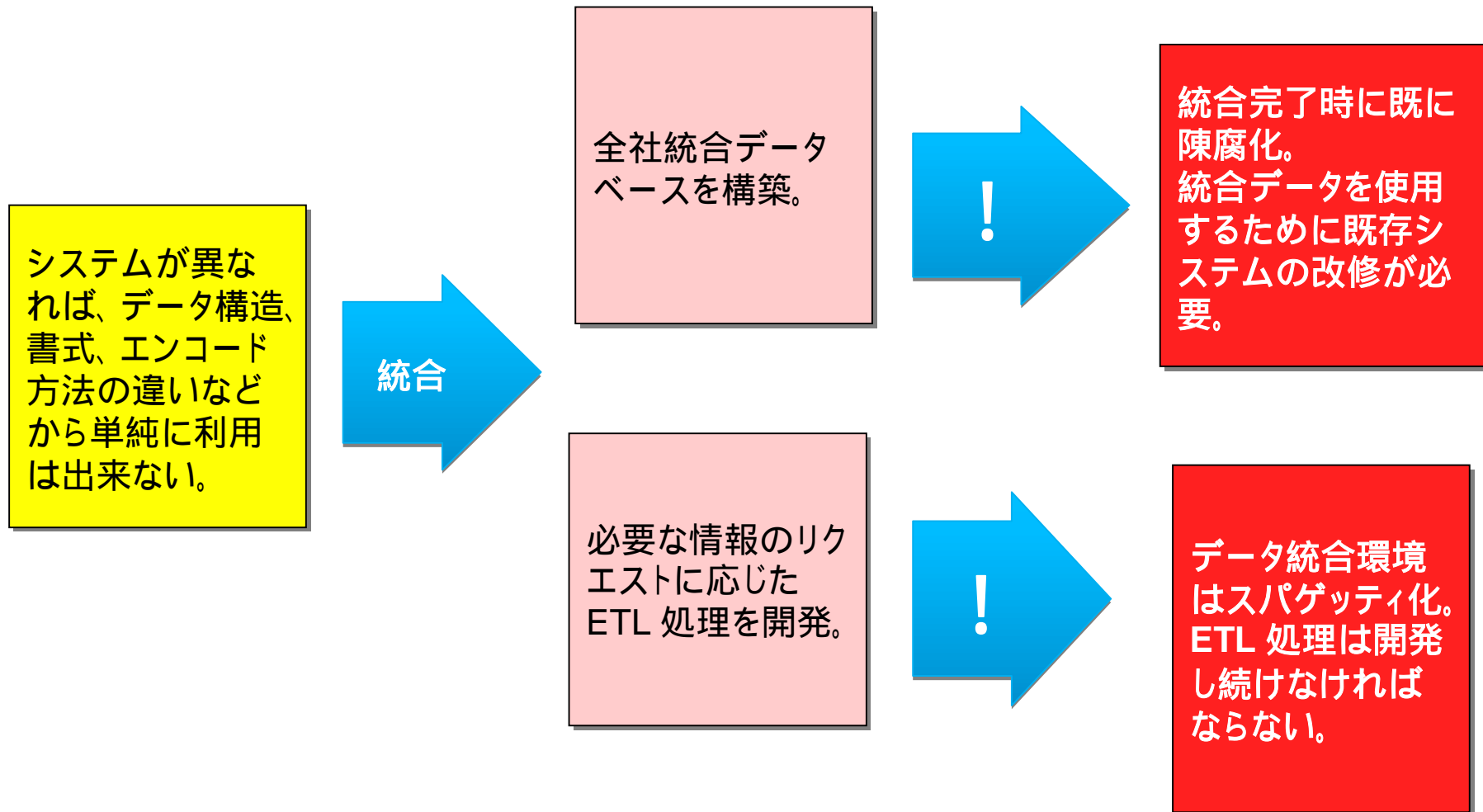


**DataをSemanticで統合し、
様々なアプリケーションの生産性を向上させる**

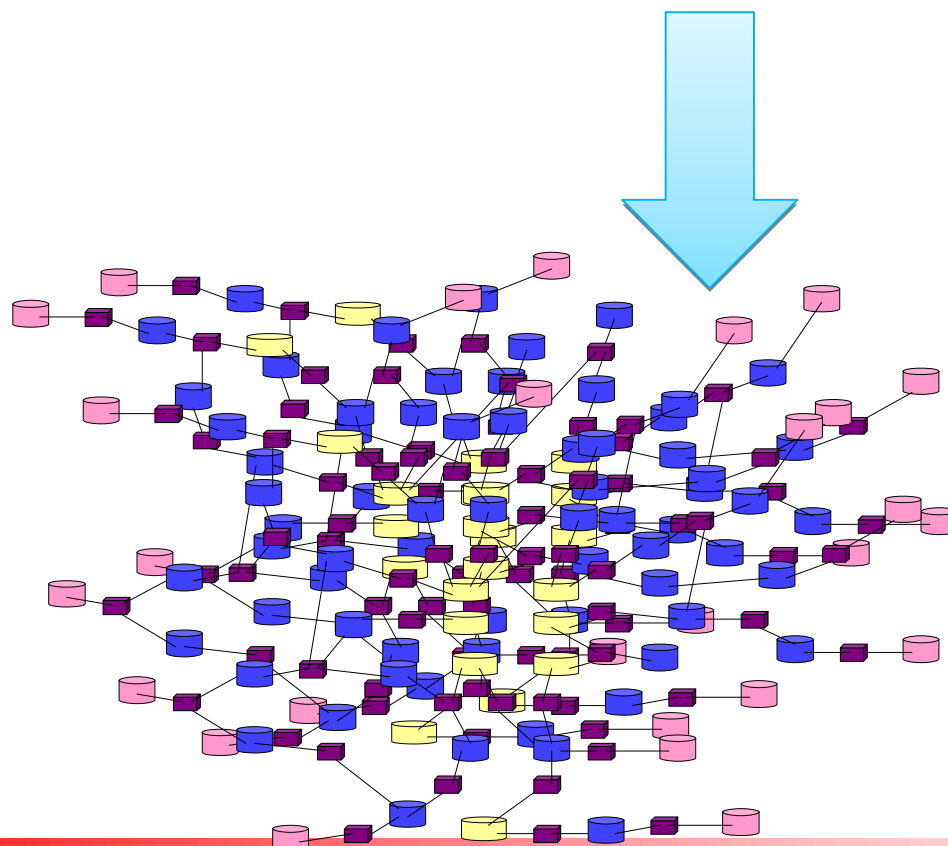
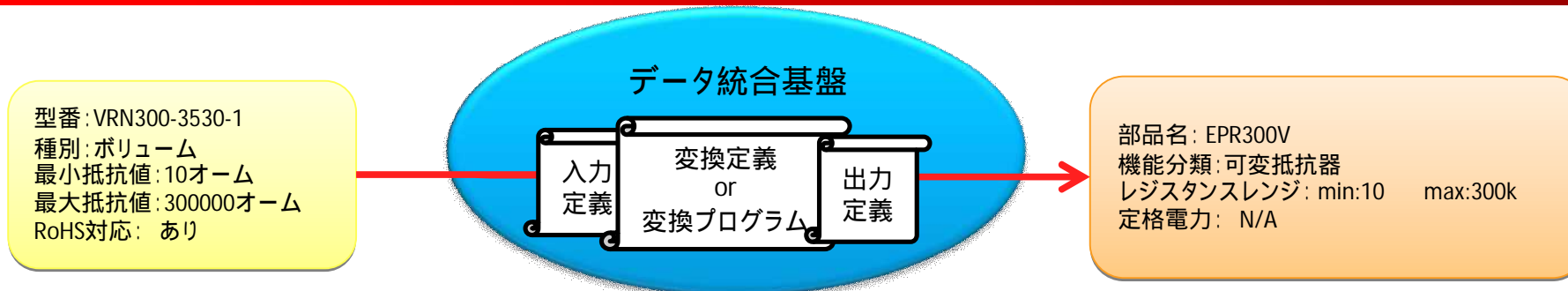
AGRA Semantic Enterprise Management System

アグラ株式会社

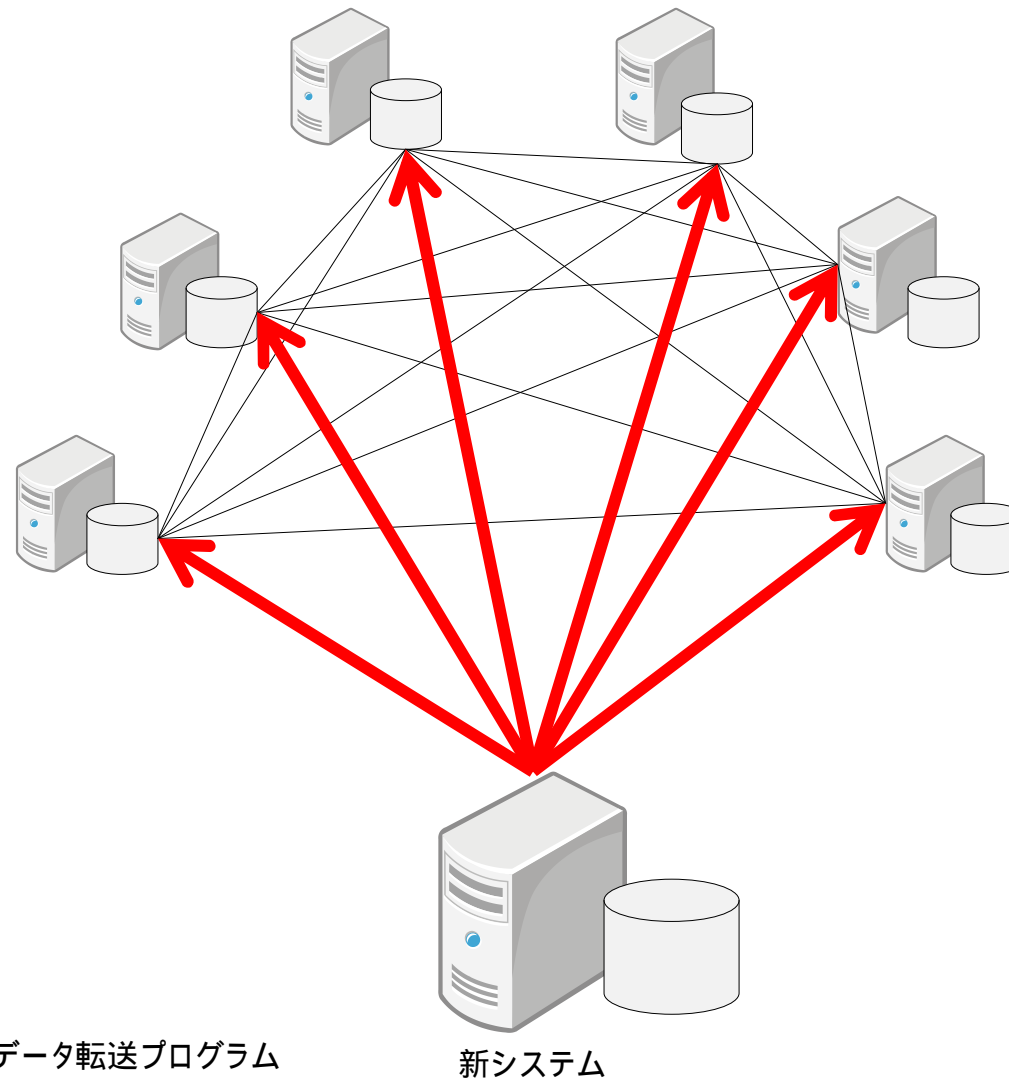
- **AGRAは、バラバラの構造化データを意味論で仮想的に連邦統合し、統合されたデータをユーザーの言葉で自由に検索するシステムです。**
- **AGRAは、バラバラの Data を Semantics (Ontology) で意味統合します。**
- **意味統合されたデータは、普段ビジネスで使っている言葉で、アドホックに検索できます。**
- **意味統合により連邦統合され、見える化ができたアプリケーションは、大幅に生産効率が向上します。**



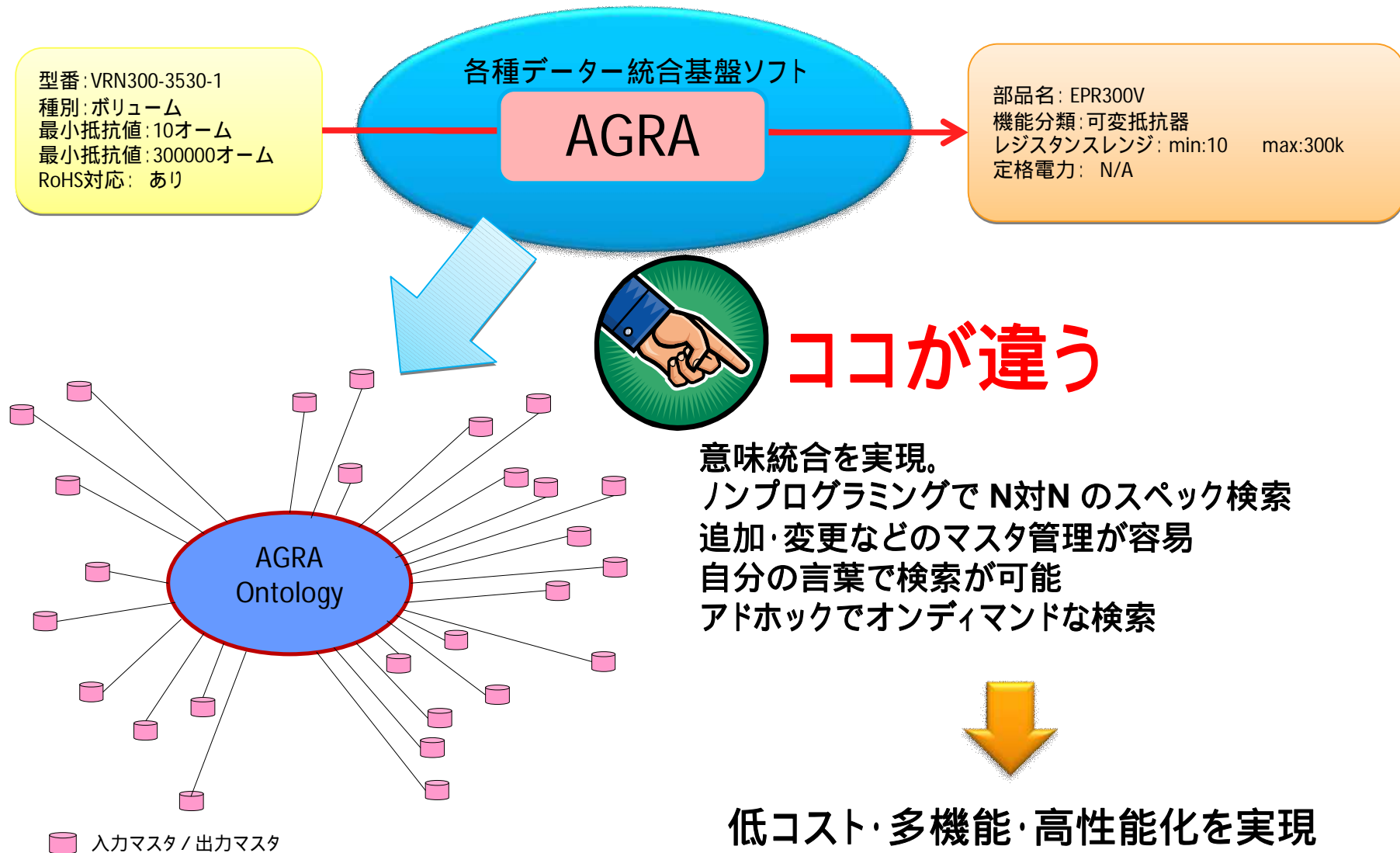
ETL等を使った一般的なデータ統合基盤の例



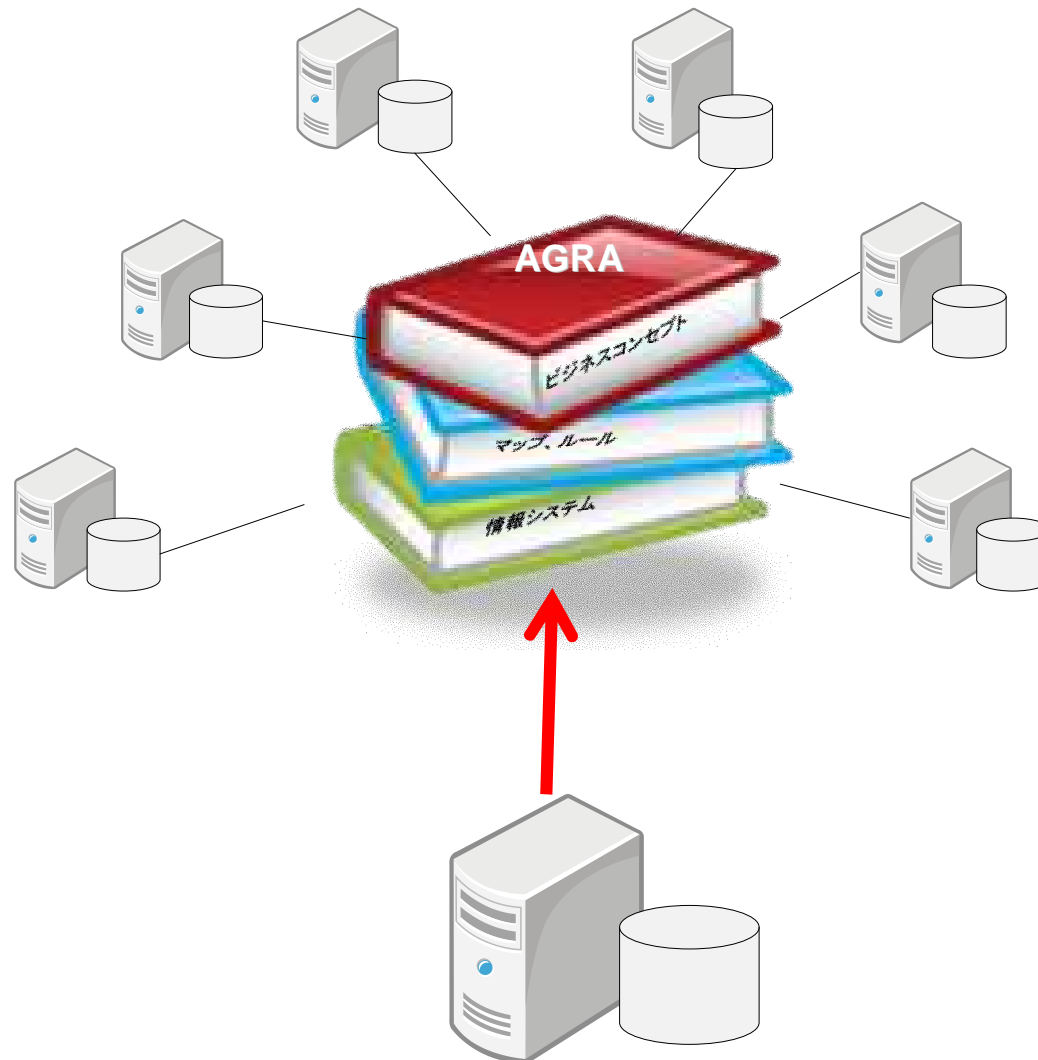
マスタを追加する場合の負荷比較 1対1のコミュニケーションの場合



転送プログラムの線一本は、情報転送するシステム間の繋がりを示しているだけであり、数本から数十本の単位で開発されることも多々ある。



マスタを追加する場合の負荷比較 AGRA の場合



- 既存のシステムと AGRA のマッピング定義 新システム
→ 新規に追加する AGRA へのマッピング定義

1. 物理的な統合が不要
2. 意味統合を実現
3. 普段ビジネスで使用している言葉で検索
4. 散在した複数のマスタから、N対Nの検索を実現
5. アドホックでオンデマンドな検索が可能
6. マスタの管理や拡張が容易

製造業、銀行、生保、流通、公益、B to C の様々なアプリケーションのデータ統合を容易にし、自由に検索できるようにします。

散在するデータが自由に活用できれば・・・

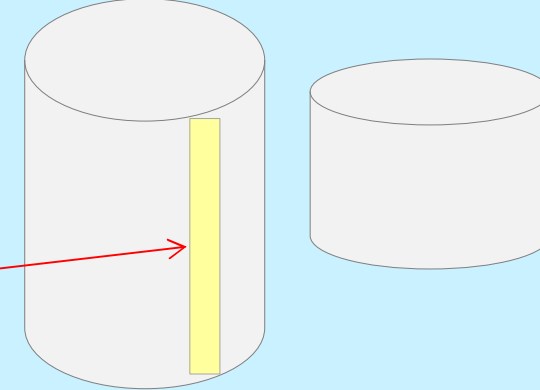
顧客企業別の各種業態商品の未収売上データを管理するためのデータマートが欲しい。。。

- データ構造の違い
 - ドメイン、モデル
 - データベース名、ファイル名、テーブル名
 - 項目名、データ型
- データシンタックスの違い
 - 数値データの単位
 - 非数量データのエンコード値
 - データのフォーマット

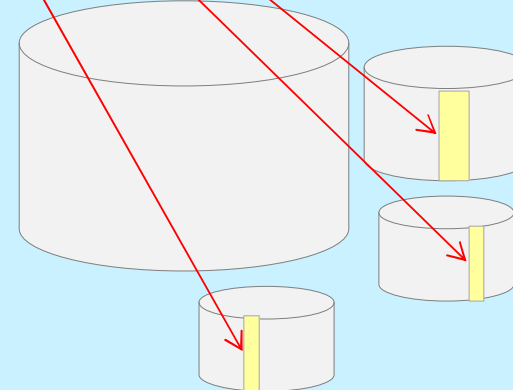


ばらばらなマスタに対する統合検索は難しい。

A業態用管理システム



B業態用システム



- 顧客マスタの統合
- 購買マスターの統合による調達費削減
- グローバル調達の可視化
- 設計変更による代替品、廃棄品の損害把握
- 補給部品のマスタ統合
- グローバル在庫の可視化
- 複数の販売管理の可視化
- コクピット経営のアドホックな可視化
- 派遣社員のマスタ統合による管理の可視化
- 人事マスタの統合による職歴管理の可視化
- 薬品のマスタ管理
- …

- SOAのエントリーポイントとしてのAGRA
- **BIのデータ基盤としてのAGRA**
- M & A 対策としてのAGRA
- レガシーマイグレーション
- グローバルな流通在庫の見える化
- データライフサイクルでのデータ品質の向上
- 内部統制対応としてのAGRA
- その他、無限の活用方法

AGRA MetaData Manager - Ver. 1.1.7.8 - [ビジネス概念メタデータ]

ファイル(F) ツール(T) ウィンドウ(W) 表示(V)

セキュリティEXPOデモ

- DM
 - 支店別商品情報管理DM
 - エリア
 - 単価
 - 受注金額
 - 年月
 - 支店
 - 数量
 - 製品
- マスタ概念
 - エリア
 - エリアコード
 - エリア名
 - 支店
 - エリア
 - 支店コード
 - 支店名
 - 製品
 - 製品A
 - 製品B
 - 製品C

種類 クラス
 UUID 98965b91-f000-4227-b9e2-000000000020
 名称 支店

定義情報 適用可能プロパティ 下位クラス選択 クラス定義値

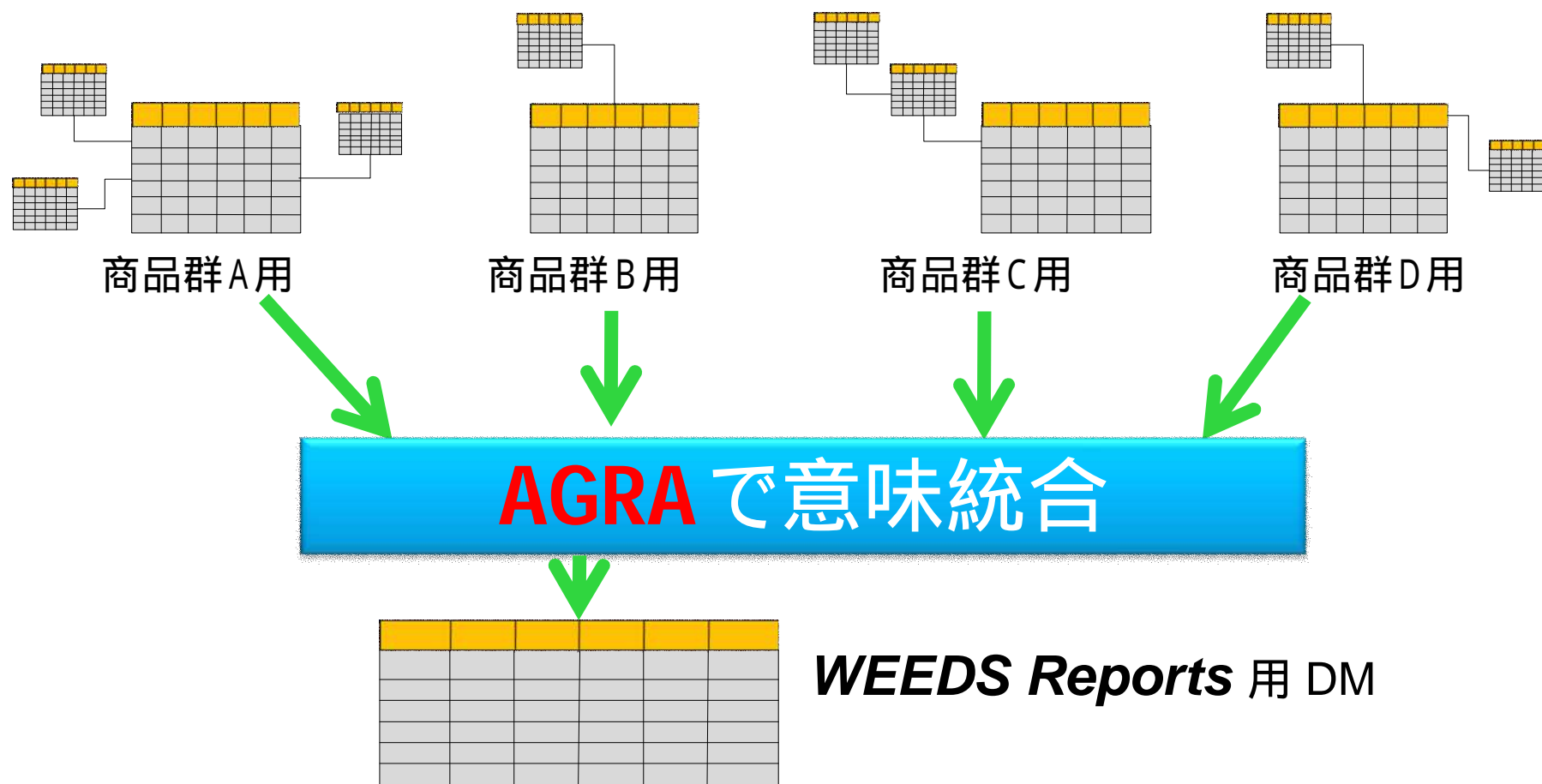
項目	値
短縮名称	
別名称	店舗
定義	商品販売を行う自社の直轄店舗
資料	
ノート	
特記事項	
所属オブジェクト	

オブジェクト名	リソースタイプ
エリア	プロパティ
支店コード	プロパティ
支店名	プロパティ

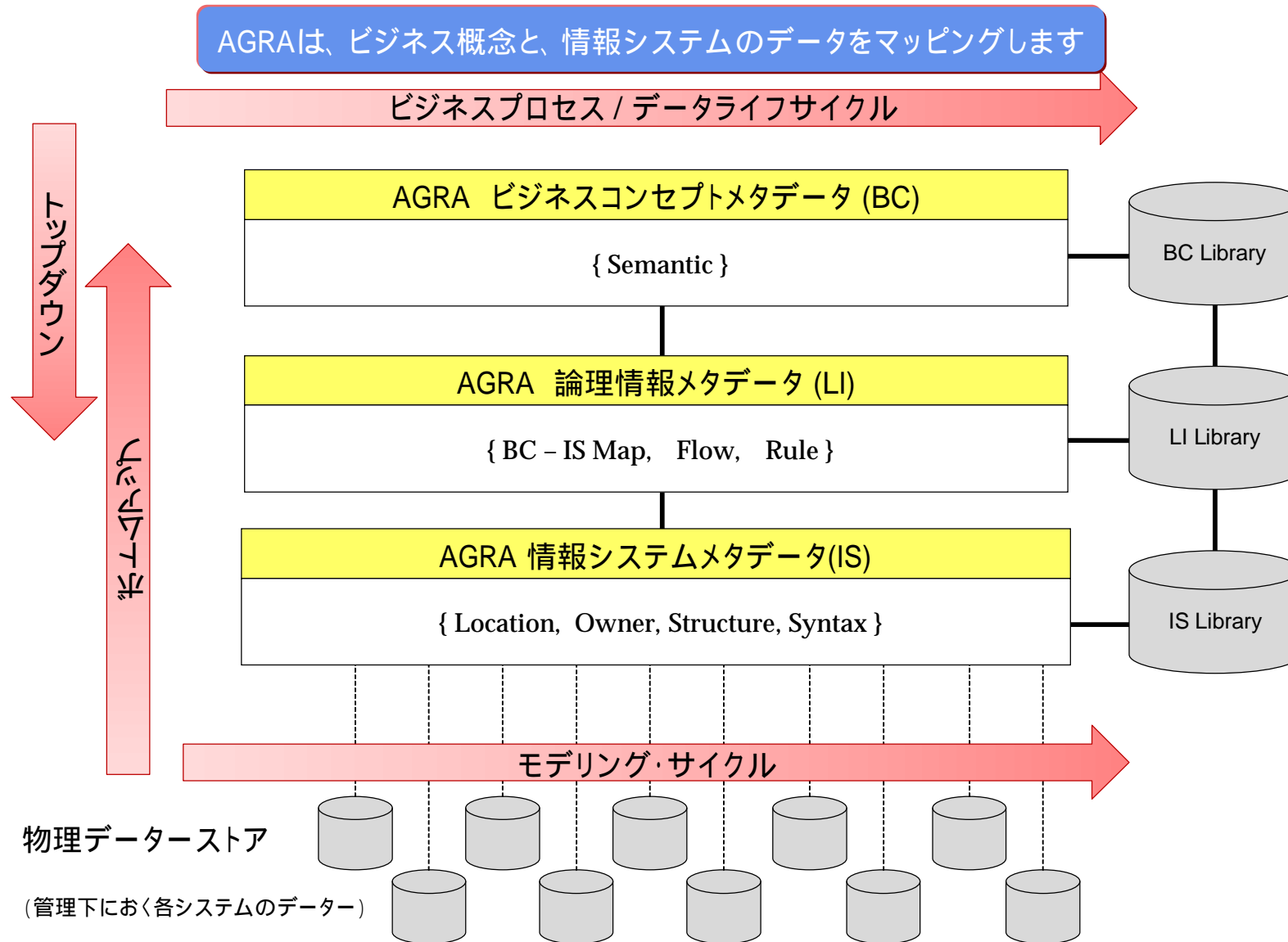
状態 ロケール: 日本語 (日本)

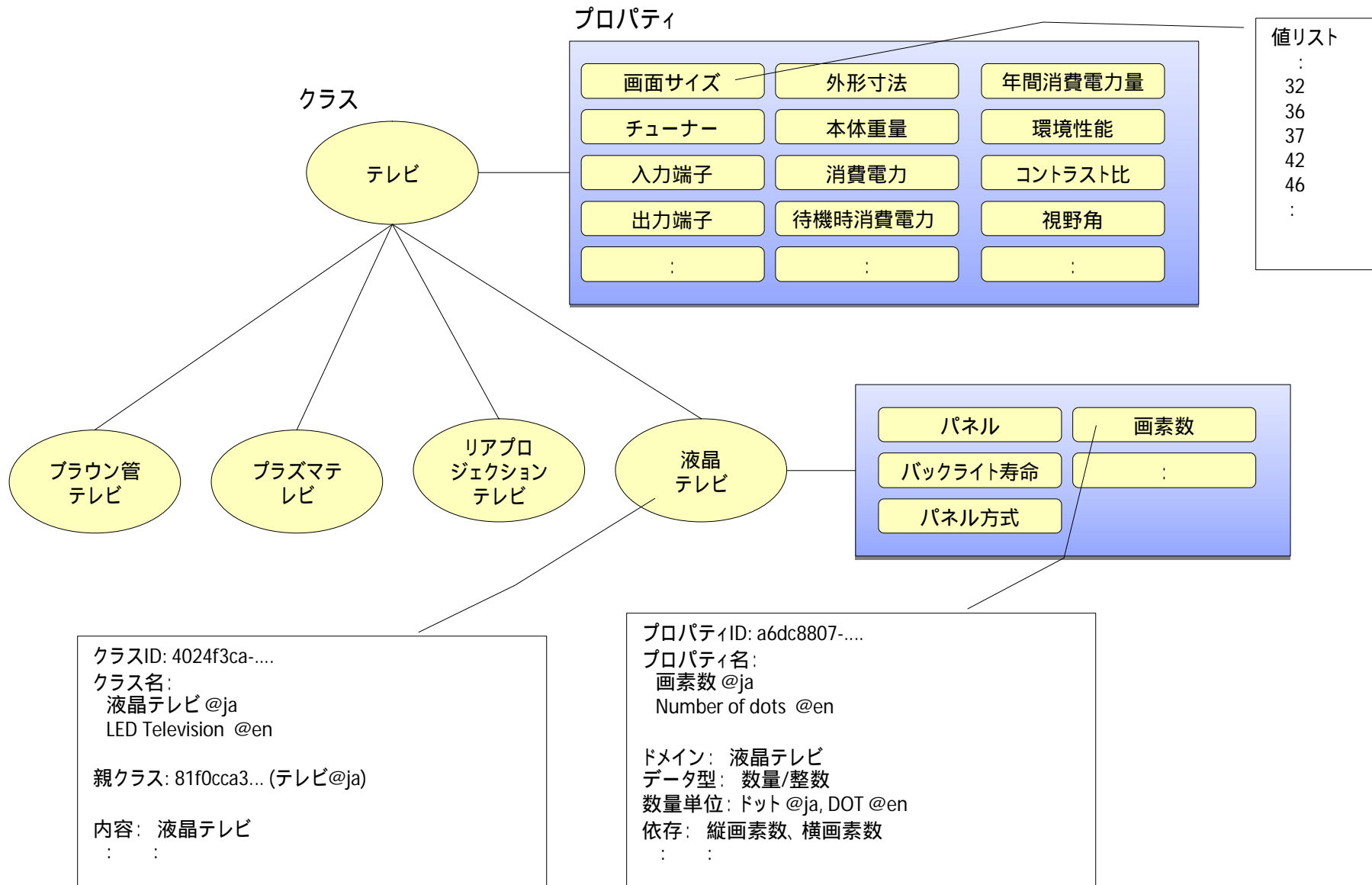
ばらばらなデータの例

- 販売プロセス、管理項目の違いから、商品群毎に個別に設計・開発された販売管理システムがある。
- データ構造、コード体系、数量単位、データ書式などがバラバラ。



<http://www.agra-japan.com/>





現在、人とコンピュータは、その意味と価値を共有できません。

それは、人が、コンピュータの思考を理解できないからであり、
コンピュータが、人の思考を理解できないからです。

人の理解できる概念と、コンピュータの理解できる概念をマッチングすれば、人と
コンピュータがコラボレートされた新しい世界が出現します。

AGRAはそれだけでなく、人の理解できる概念で、コンピュータの分散されたデー
タを、つなぎます。そこには、人と、分散されたデータの共有化が生まれま
す。

そうして、人は、自由にコンピュータの中から、自分の言葉で欲しいデータを探し
出し、活用することができるようになります。

ここにパラダイムシフトがおきます。